

# 輸出入業務支援システムの課題 - グループ内共有情報の利活用 -

2018年05月22日  
情報通信委員会  
GSCM-WG

## 輸出入業務支援システムの課題

### 1. 2017年度活動概要

### 2. 活動報告

- 業務フロー
  - ✓ 一般的な業務フローの見直し
  - ✓ 実務的なあるべき姿 (To-Be) とのギャップ
- フロー詳細
  - ✓ 輸出業務：文書とERPプロセス
  - ✓ 輸出プロセスに応じた課題 フロー/課題

### 3. まとめ

### 4. 2018年度活動方針

## 1. システム部門へのWGヒアリング、意見交換、情報収集

- ERP接続情報と貿易実務の連携
- 文書化のシステム支援の有無
- 物流部門との情報共有
  - ✓ グループ内物流会社
  - ✓ 社外FWD(乙仲・海貨・通関業者)
- 海外荷主(特に現地法人)との情報共有の要否
  - ✓ PO発信元情報
- 規制関係への対応について

## 2. NACCS接続の有効性評価

- 荷主のNACCS参加 – SIR船積指図登録でFWDと情報共有を図る
- 第6次機能改変の検討 国内/海外
- NACCS理解に向けての学習

## 3. 他団体との情報交換

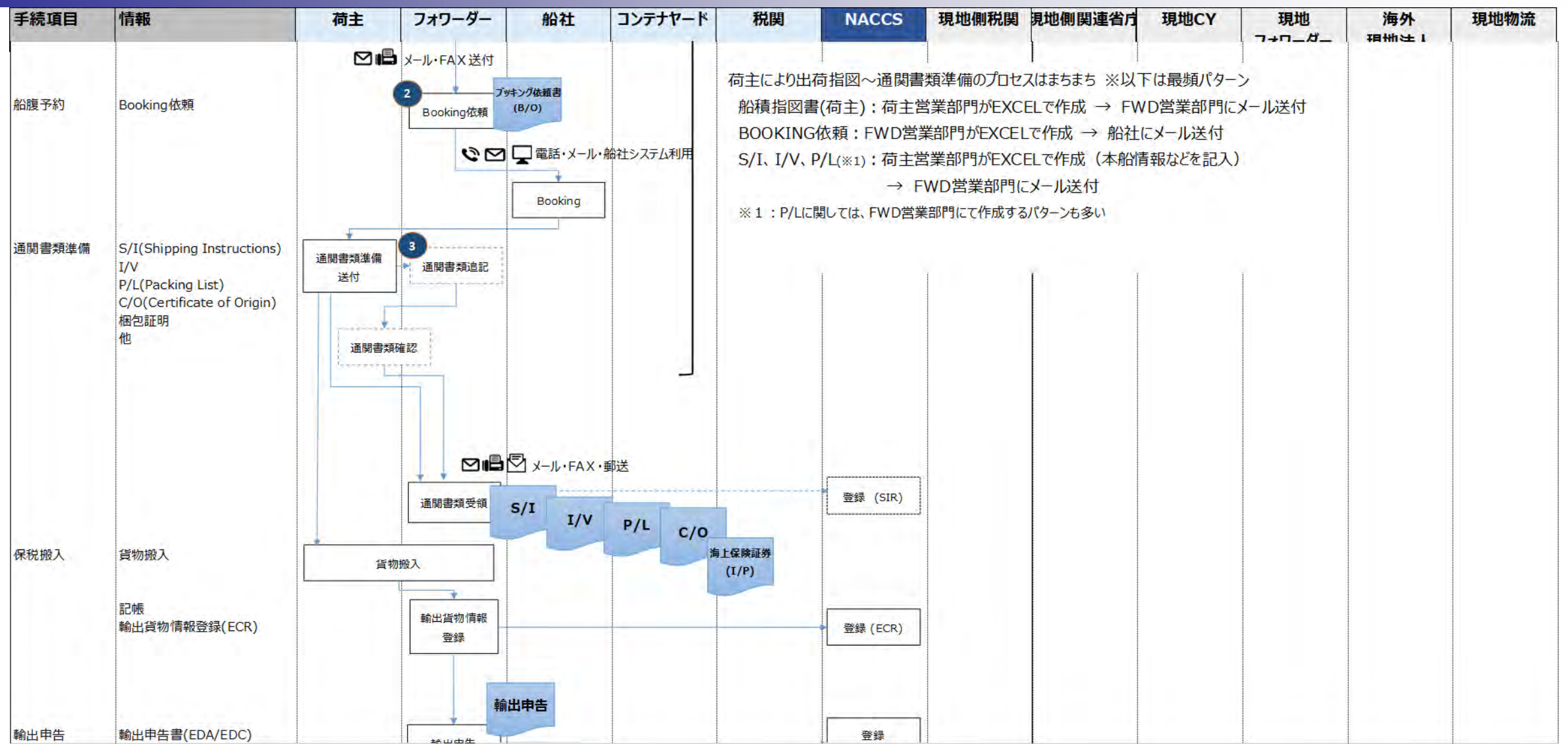
- SIPS 一般社団法人サプライチェーン情報共有研究会

# 1.GSCM-WG 2017年度活動（進捗）

年月	'17/08	'17/09	'17/10	'17/11	'17/12	'18/01	'18/02	'18/03	'18/04	'18/05
初回	★初会合：計画案合意 年間スケジュール案									
輸出業務と ERP Process			★19日 8F					合宿 23日  各社  事例 紹介  日触 三菱 宇部		
アンケート及び フロー 再考				★16日 8F						
輸出業務詳細 (自社業務To-Be記述)					★21日 8F					
報告書フォーマット の提示							★15日			
6次NACCS 学習・理解										
GSCM-WG 2017 報告書作成									★19日 作業案	★17日 リハ

定例会議 各月第三木曜日13:30-15:30（9月,1月は休会、3月に合宿開催）

# 2.GSCM-WG 輸出業務 フローの見直し



# 2.GSCM-WG 輸出業務 詳細 (自社To-Be)

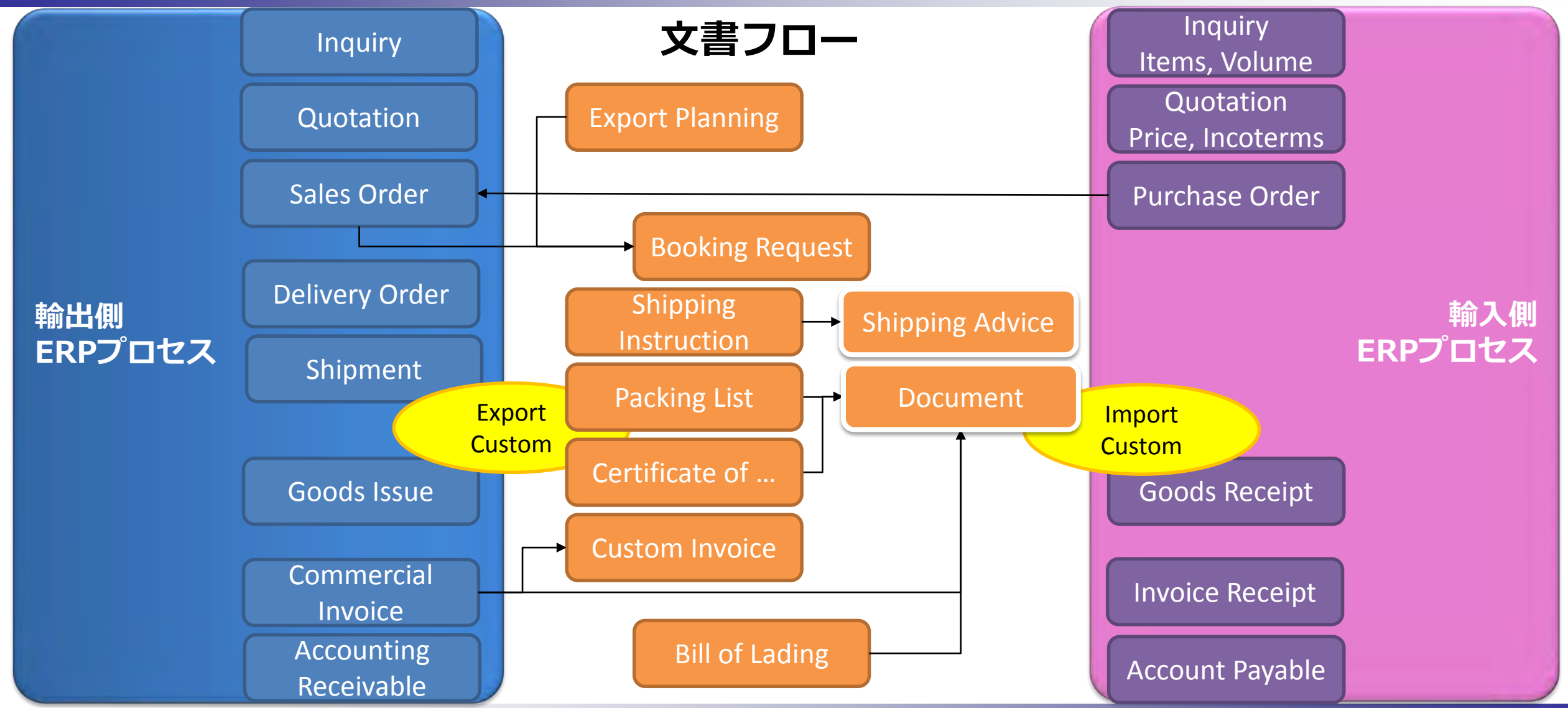


業務体系表 (To-Be)

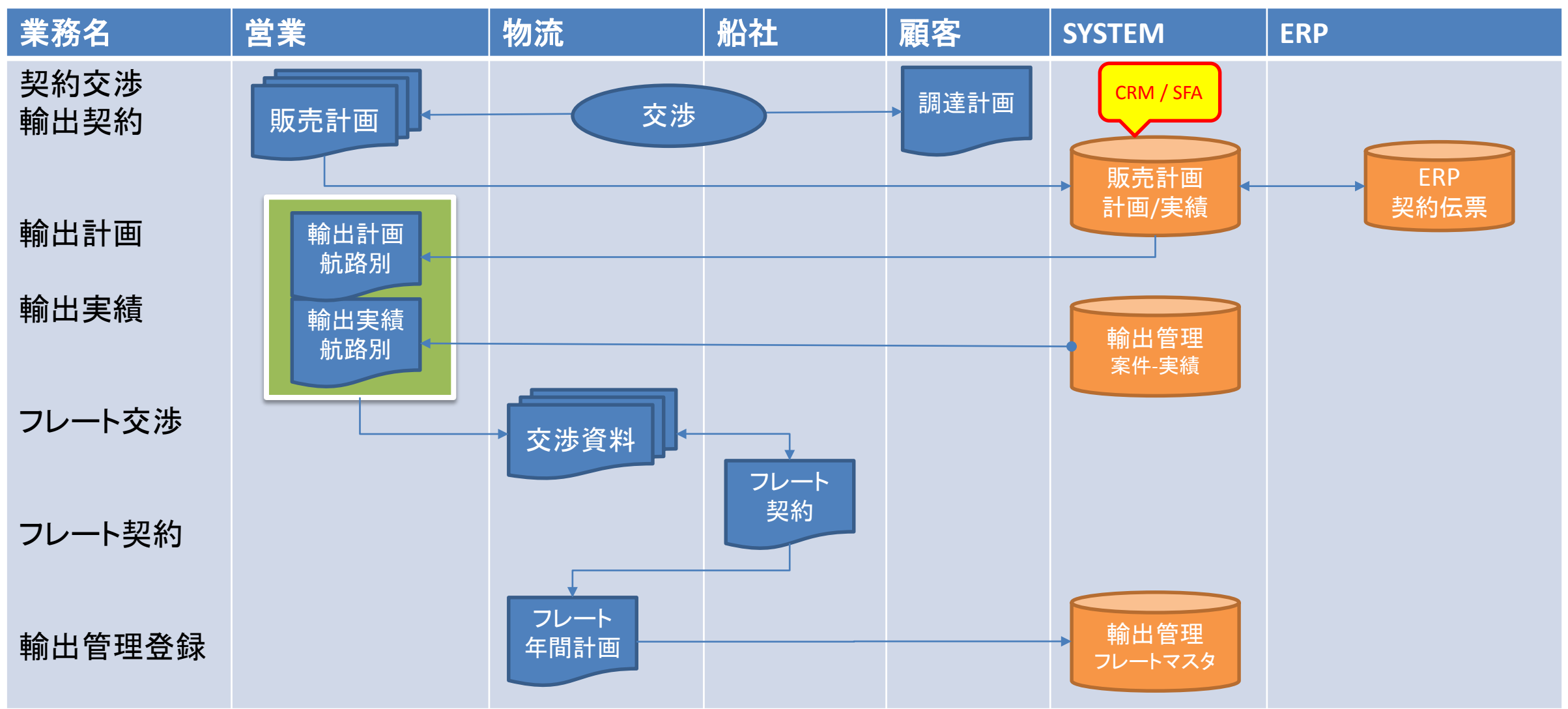
機能名	輸出関連	輸出計画・準備・実行・整理
【機能のミッション】	顧客からの輸出注文を管理し、在庫から引当て、輸出許可を受けて、出荷する	

業務名		担当人数	関連部署			業務タイミング	参考資料	帳票/システム		システム制御	重要度 (高中低)	業務量 (総時間)
1次	2次		担当部門	前工程	次工程			帳票	システム			
契約環境	顧客別年間契約		営業	顧客	管理、生産、物流	09-12月	顧客別販売計画	販売計画/実績	販売計画		高	大
	航路別数量実績/計画		営業	物流		10-12月	航路別輸送実績/計画	輸出実績/計画	実績/計画 DB		中	中
	フレート契約交渉/締結		物流	営業	船社	10-12月	船社別フレート契約		輸出管理		高	大
輸出オーダー (引合)	オーダー元の確認		営業	顧客			メール				中	
	グレード・納期の確認		営業	顧客			メール				中	
	在庫の確認		営業		生産		生産計画 (月次/週次)	在庫予測	生産計画		中	
輸出オーダー (見積)	エンドユーザーの確認		営業	顧客			メール	輸出案件_準備	輸出管理	輸出DB検索	中	小
	出荷可否: 規制貨物		営業	顧客	生産	要事前確認	リスト規制: 該当判定	キャッチオール	CISTEC		高	小
	出荷可否: 化学物質規制		営業	顧客	生産、環境安全	要事前確認	化学物質規制: 地域別	インベントリチェック	LOLI	化学物質積算	高	大
	貿易条件の確認		営業	顧客			輸出契約準備		輸出管理、基幹	輸出テンプレート	低	小
オーダー内容の確認	PO, LC 受信の確認		営業	顧客			現法販社 PO Data	輸出案件_実行	輸出管理、基幹	PO, LC Upload	高	小
	量・グレード・納期の確認		営業	顧客			PO (ETA, ETD)		輸出管理、基幹		高	小
	SHIPPINGマーク確認		営業	顧客	デリバリ、出荷		PO	輸出案件_実行	輸出管理、基幹		中	小
	在庫・生産の確認		営業		デリバリ		在庫・生産状況		基幹		中	中
	ブッキング依頼		営業		物流→船社		PO	輸出案件_実行	輸出管理、基幹		中	中
	ブッキング回答受領		営業	船社→物流			Booking Data	輸出案件_実行	輸出管理、基幹	BKG Data網羅	高	中
	S/I 作成		営業		デリバリ、通関	BKG確定後	PO, LC	輸出案件_文書	輸出管理	DB内	高	大

# 2.GSCM-WG 輸出業務 & ERP Process



# 2-1. 関連契約





# 2-1. 関連契約

## ➤ 販売計画

- ✓ 顧客との計画を登録する(年間契約/クォータ契約/スポット契約)
- ✓ 前年度実績を参考にした販売予算の形式をとる場合もある

## ➤ 輸送計画

- ✓ 航路別(積港 – 揚港)のコンテナ数量を提示
- ✓ 販売計画を航路別コンテナ数量として集計できることが望ましい
- ✓ 前年実績を航路別コンテナ数量として集計できる(参考データとして)

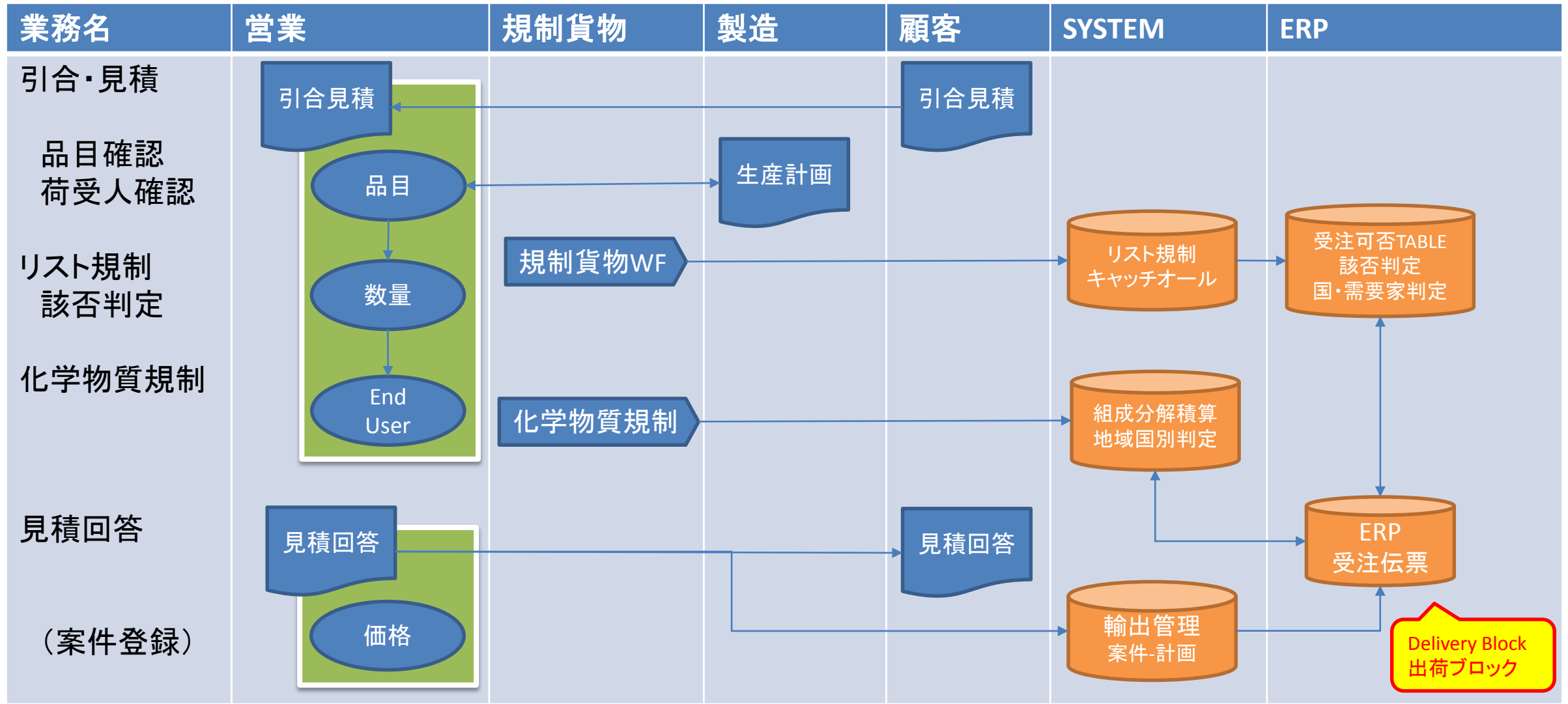
## ➤ 船社交渉

- ✓ 輸送計画・実績をもとに、船社とフレート交渉をすすめる
- ✓ 一般には、ボックスレートと諸サーチャージから構成されるタリフとなる
- ✓ 個社・グループ会社、ならびに海外法人からの輸入などの物量をまとめると有利
- ✓ 国内フォワーダとの交渉の場合は、手数料、文書作成費等も含めて検討

## ➤ その他

- ✓ 必要に応じて、フレートマスタを登録する
- ✓ 外貨契約が一般的なので、支払通貨によっては為替レート換算が必要になる

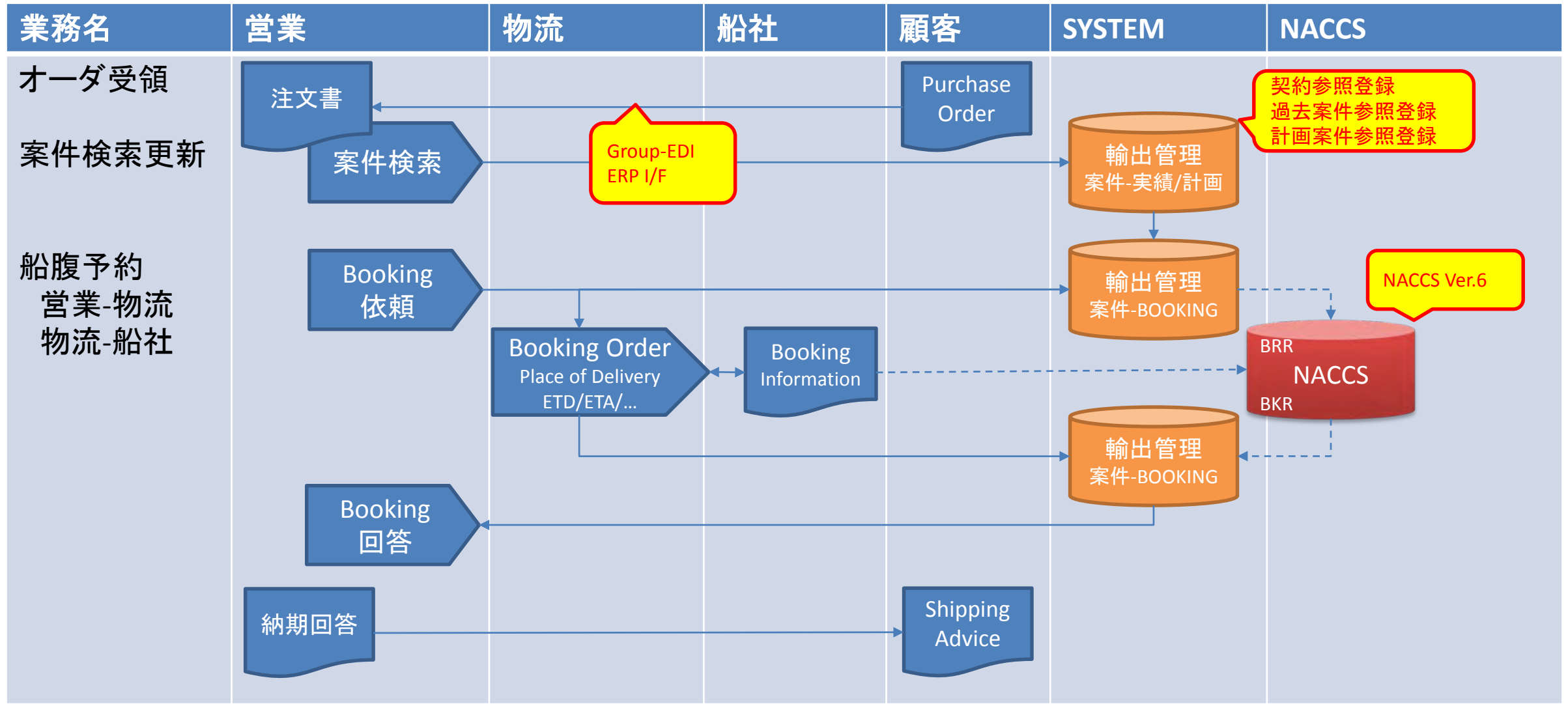
# 2-2. 輸出案件



## 2-2. 輸出案件

- 輸出関連システム
  - ✓ 登録のタイミング(引合時・見積時・P/O受信時)の考慮
  - ✓ 安全保障貿易の観点からは、取引開始以前に製商品や取引先に関する情報を社内ルールに沿った承認プロセスが完了していることが望ましい
- 安全保障貿易管理(規制貨物)
  - ✓ 包括許可の概要
  - ✓ 輸出貨物/技術に対するリスト規制の該否判定、国・顧客・用途に対するキャッチオール規制
  - ✓ 規制に関するワークフローシステムがある場合は、申告-承認タイミングとコントロールを考察
- 諸外国・地域の化学物質規制
  - ✓ 我が国の化審法に相当する(?)もので、国・地域によって輸入・製造に規制がかかる
  - ✓ それぞれの国・地域によって、異なる対応が必要
  - ✓ ポリマーの構成物質にまでブレイクダウンする必要のあるケースもある
- ERPとの連携
  - ✓ 規制貨物の審査結果、化学物質の累積数量、からERPの受注もしくは出荷をコントロールできるか
  - ✓ Item Code, Vender Code (End User), Volume の管理が必要

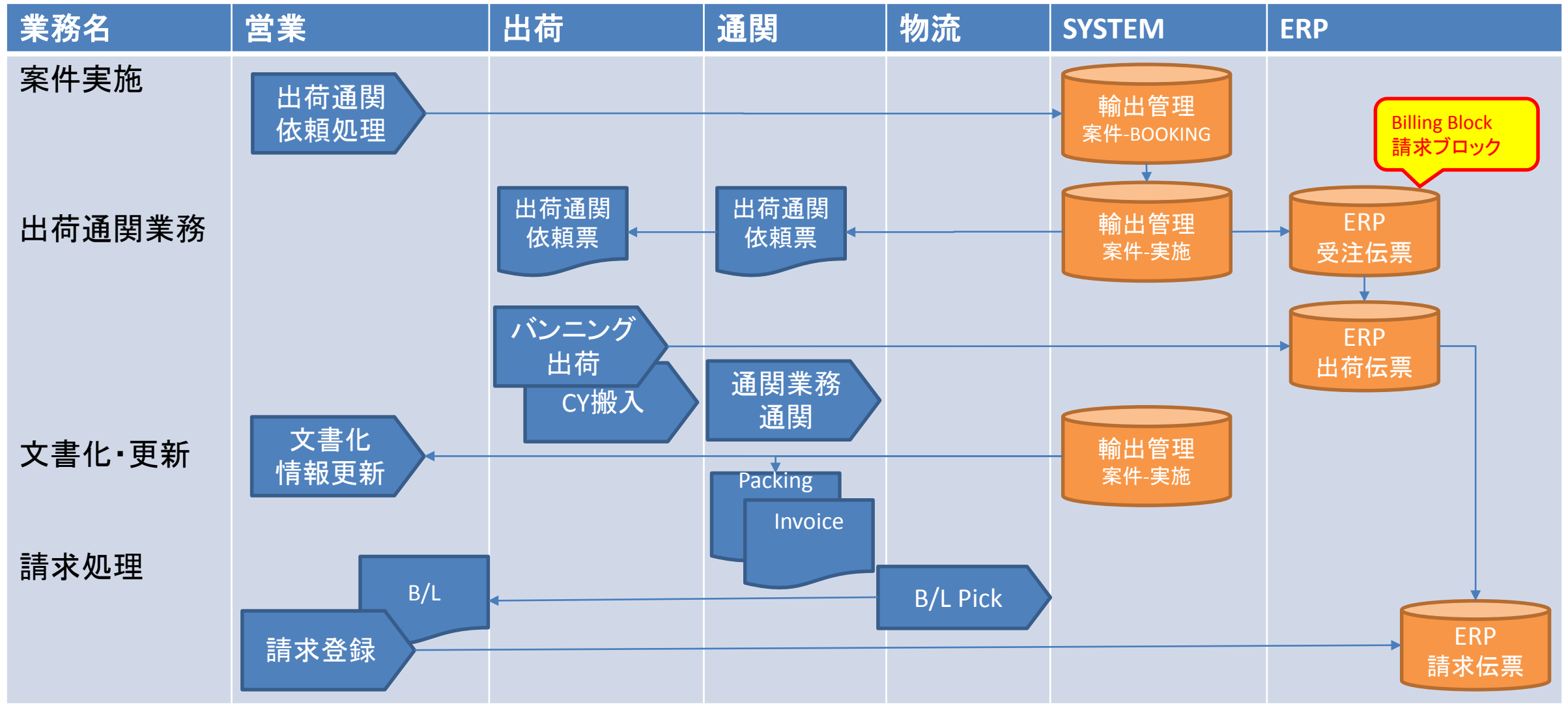
# 2-3. ブッキング



## 2-3. ブッキング

- 顧客 – 本社間 データ連携
  - ✓ 発注書 (P/O) を自社ERPの受注 (S/O) に連携する仕組み (グループ間EDI / One Instance / 情報共有)
  - ✓ 顧客を海外現地法人販社とするならば、ハードルは下がる
- 輸出受注 (リピート)
  - ✓ 年間/クォータ契約等のリピートデリバリーの場合、過去案件利用で効率化
- ステータス
  - ✓ 案件状態 (引合・見積)、ブッキング依頼 (船社プロセス)、実施状態 (輸出トランザクション)
  - ✓ より早期に、規制貨物の審査結果や、各国化学物質の量的規制の、チェックを行える
- ブッキング依頼・回答
  - ✓ ブッキング依頼は、品目マスタや需要家マスタを駆使して、NACCS Codeに対応させる
  - ✓ Port of Lading, Discharge, Place of Delivery, Trade Term, ETD/ETA/Cargo Ready 等は必須
  - ✓ 第6次NACCSを利用した「BRR: ブッキング依頼 BKR: ブッキング回答」の利用
  - ✓ マニュアルでも船社からの回答情報 (BOOKING No., Voyage No., ETD and ETA等) を登録可
  - ✓ 情報は、Shipping Advise として利用する

# 2-4. 通関依頼



## 2-4. 通関依頼

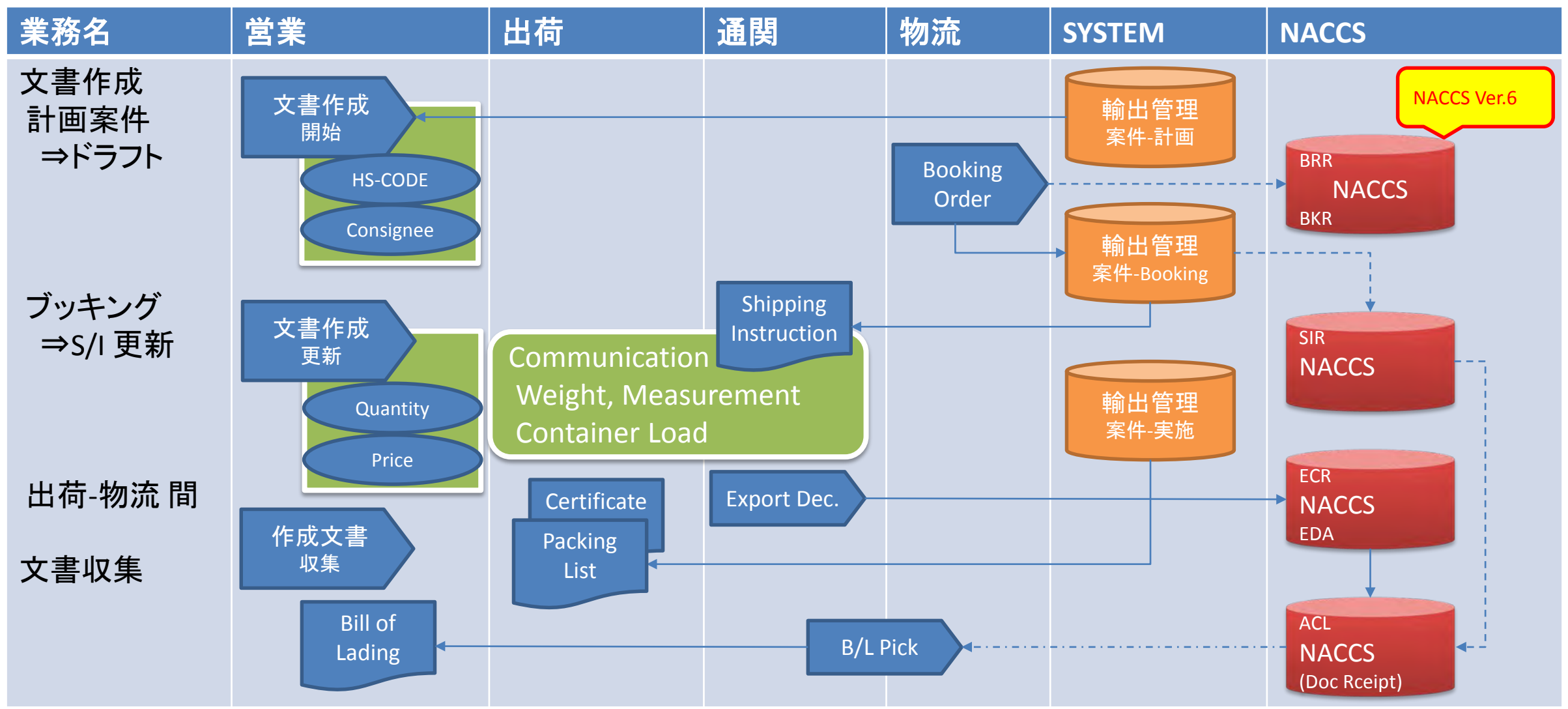
### ➤ 出荷通関

- ✓ 工場・倉庫での出荷実務は、通関業務と並行して行われる
- ✓ 通関業務の中で、出荷実務担当者とのコミュニケーションが肝要
- ✓ ERP受注がP/Oと同義の場合、ここで連携される
- ✓ 引合・見積時点でERP受注と同期した場合、P/O入手時点でP/O記載項目で変更が行われる
- ✓ 全社的なERPプロセス、工場・倉庫毎に適用される現場システムとの相互の情報連携が必要
- ✓ 可能であれば、文書情報も含めて輸出関連システムが主要情報のハブになる

### ➤ ERP

- ✓ ERPは一般的に、受注-出荷-請求という流れになる
- ✓ 得意先には、受注(請求)先、出荷先、需要家(エンドユーザに相当)する商流が必要
- ✓ ERP側に輸出関連情報を持たせる場合、受注伝票か出荷伝票との違いを考慮
- ✓ 受注伝票は、請求日の考え方によるが、自動的な売上計上から退避させておく

# 2-5. 文書作成





## 2-5. 文書作成

### 輸出ドキュメントの作成にフォーカス

- HS-CODE 品目に依存するため、ERP側でもつことも可能、もしくは輸出レイヤで補完
- Consignee End User情報、正式社名・住所・電話番号等の英文化  
取引先マスタ側でもつべきだが、対応できない場合は輸出レイヤで登録する
- CAS No. 化学物質規制の場合は、構成部品としてCASまで考慮する必要がある
- Booking Info 一般には船社から与えられるB/L No. Voyage No. ETD/ETA  
Shipping Advice や 船社からのSchedule Service に対応
- Shipping Instruction  
P/O, Shipping Info をまとめ船積指図書に相当する、NACCSではSIRとして登録可
- Packing List Item - Grade, Quantity
- Weight, Measurement , Container Load Plan  
梱包形態が一定ならマスタ化可能、一般に出荷現場での非効率な情報収集

### 利用頻度の高いNACCS業務

- NACCS-SIR 船積指図書、顧客のPOに船社のBooking情報を追記したもの、情報流の最上流にある
- NACCS-ECR 貨物申告、SIRから引き継がれ、EDA輸出申告として活用可能
- NACCS-ACL Doc Receipt (船積登録)に相当、船社でB/L発行の元情報、SIR情報から直結できる

# 3.GSCM-WG 2017年度活動 まとめ

## ➤ ERP接続情報と貿易実務

- ✓ 基本的には、顧客からの発注(P/O)をERP受注(S/O)とする
- ✓ 規制関連情報等によるERP制御のため引合・見積からシステム化する
  - 安全保障貿易管理: 該否判定、キャッチオール、取引先管理
  - 各国化学物質規制: インベントリチェック(欧州REACH、米国TSCA、韓国化評法等)

## ➤ 海外荷主(特に現地法人)との情報共有

- ✓ 海外現地法人(販社・製造)と国内グループ会社との間での情報共有の要望はある
- ✓ EDI的なものになるのか、輸出入情報クラウドのイメージか
- ✓ ERPがワンインスタンスでない場合は、上位レイヤで共有化を行う

## ➤ 物流部門との情報共有

- ✓ 実績にもとづく船社契約、依頼に応じた船社起用、フレート実績情報の共有
- ✓ 物流部門、グループ内通関業務は共有対象

## ➤ 文書化のシステム支援

- ✓ ERP受注(S/O)とBOOKING回答を基礎データとする
- ✓ 業務メリットの提供、必須イベントとの連携等、利用促進策を検討する
- ✓ 営業-通関部門間の役割分担によってシステム支援効果は限定的
  - フォーマット重視か、データ重視か
- ✓ NACCSとの整合性をとるためのマスタ、マッピング等が必要

## 目的

輸出関連部門に実効性のある改善ができる情報システム部になるための実践的知識の習得

## テーマ

### 1. 輸出業務における課題

① 海外荷主（特に現地法人）との情報共有について

- 海外グループ会社間との取引における改善可能性

② システム利用促進策について

- 荷主（≠フォワーダー）における課題とシステム化メリットの整理（業務標準化の課題、ERP連携、各種規制、NACCS活用）

### 2. 他団体との情報交換